

## 聖学院の国語～創造的思考への参与

### 活発な言語活動空間

思春期から青年期に至る時間の中で、生徒たちは学業を修めながら人格を形成してゆきます。豊かな人格を形成するためには、豊かな言葉を獲得しなければなりません。人格も言葉もともに他者との関わりの中で後天的に鍛えられるものであるため、学習者を取り巻く環境の質が問われることとなります。多感な時期を過ごす生徒たちが、さまざまな経験を重ね、それを将来の糧としてゆけるよう、わたしたち国語科教員は、テキストの読解や意見交換、スピーチ、討論、論述などさまざまな実践を通し、活発な言語活動空間を創出します。自分の発言が仲間を受け入れられ、発展したものになってゆくという過程の中には「創造的思考への参与」という本質があります。そのような経験をすべての生徒と共有すべく、日々の授業に取り組んでいます。

### しなやかな思考力

たとえば、読解力の育成に関して述べるならば、初歩的な段階では、それぞれの単語や文が文章全体の中で果たしている役割に着目させます。文章全体を大きな視野で俯瞰する視点を持った生徒たちは、難解な文章に対したときにも理解することをあきらめません。そして、徐々に、すぐれた評論や文学作品を提供し、内容の読解とともにそれが書かれた文化的背景、社会状況について考える機会をつくります。筆者が何を述べているのかを正確に読み解こうとする態度から導かれた解釈は、客観性を帯び、説得力のあるものに昇華されています。このレベルでの議論が展開される教室は、生徒たちを創造的な思考へ導く空間となり得ます。高校の最終段階においては、文章を批判的に読解するというハイレベルな思考にも挑戦します。筆者が何をどのように述べているのか、論証の仕方にも目を向けさせることで、鮮烈なワンフレーズに流されることのない、確かな論理的思考力を完成させます。

### 他者の言葉を受け止め、自らの言葉を的確に伝える

いずれ生徒たちはさまざまな分野へ飛び立ってゆきます。育まれた特性を生かし、創造的な働きをするためには、自分は何をなすべきなのかということ、他者とともに生きながら常に考えてゆかなければなりません。他者の言葉をしっかりと受け止め、自らの言葉を的確に伝えられる人は、創造的な活動を実践できる人となります。なぜなら、新しい発想は互いの異質性を認め合う関係性の中でこそ生まれるものだからです。他者とともに生きる精神とそれを実践する術を育て上げることが聖学院国語科の使命と考えます。